

# お知らせ

## 九月例会

期日：立教 188 年 9 月 25 日  
 時間：15 時 30 分受付 16 時開始  
 会場：教庁 4 階講堂

## 学生層育成者講習会 日程・会場案内

【教区】	9 月 2 日	教務支庁
・佐賀	9 月 2 日	
【直属】		
・伊野	9 月 20 日	大教会
・芦津	9 月 23 日	大教会
・名古屋	9 月 23 日	大教会

# 報告

## 七月例会

去る 7 月 25 日、東右第四棟 4 階講堂において「七月例会」を開催。出席は 18 教区、72 直属。

## 各地の動き

- 【教区学生層育成者講習会】
- ・山形 7 月 2 日 教務支庁  
春野三千彦委員出向
- 【直属学生層育成者講習会】
- ・錦江 7 月 6 日 大教会  
飯降好助委員出向
- ・本理世 7 月 6 日 大教会  
中山祥吉副委員長出向
- ・東 7 月 20 日 大教会  
岩井大輔委員出向
- ・中根 7 月 20 日 大教会  
小西祥治委員出向
- ・小南部 7 月 22 日 大教会  
清水学委員出向
- ・西 7 月 24 日 大教会  
清水学委員出向
- 【直属学生担当委員長辞令交付】
- ・深谷耕治（やまとよふき）

## 業務記録

- 《立教 188 年 7 月 16 日～8 月 15 日》
- 7 月 17 日 事務局連絡会
- 25 日 委員会 例会  
広報室会議
- 27 日 こどもおちばがえり  
大学生ひのきしん隊（～3 日）
- 8 月 5 日 勉強会チーム会議
- 7 日 学生生徒修養会 高校の部  
スタッフ直前研修会（～8 日）
- 9 日 学生生徒修養会 高校の部（～13 日）

## 人事

- 《立教 188 年 7 月 25 日付》
- 【直属学生担当委員長辞令交付】
- ・深谷耕治（やまとよふき）

# 学生担当者報 9

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉  
 Vol. 463 立教 188 年 2025 年 8 月 25 日発行  
 TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp  
 TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

## 「変化球を覚えなさい」



初めて学生生徒修養会大学の部のスタッフに

お声がけいただいた際、これまで学生会と全く関わったことがなく、また根暗な性格の私には向いていないご用だと不安でいっぱいでした。

期間中は裏方の庶務係を務めさせていただいたお陰で、学修のいろいろな場面を見させていただくことができました。喜びがあふれている学生の姿や、信仰の喜びを伝えようと全力投球をされているスタッフの姿、そして学修を通して感じる、親神様、教祖の大きな大きな親心。こんなありがたい世界があるのだと心が震えました。

翌年の大学の部では、学生と直接関わるカウンセラーを初めて務め、見よう見まねで自分なりに全力投球をさせていただきました。

学修終了後に、期間中の勤め方や、学修の感想などを塾長にお話しさせていただく機会があり、先生は真剣に私の声を聞いてくださいました。そして私の話が一通り終わった後に、「よく頑張ってくれたね！ ありがとう。あなたはいつも直球勝負だね。今回はそれでよかったかもしれないけど、直球、ストレートだけなら通用しない時がくるよ。直球を磨くことも大切だけど、これからは変化球を覚えなさい。変化球を交えるから直球が生きてくるんだよ」と笑顔でアドバイスをくださいました。

当時の私はあまり理解できませんでしたが、毎年 11 月に開催されている「育成に役立つ研修会」での『きく・みる・はなす』という講義を通して納得することができました。私は学生の胸の内を聞くこともなく、学生の

様子を見ることもなく、一方的にお道の教えを伝えようと直球を投げ続けていたことに気付きました。また、先生が言われていた変化球とは、相手に合わせて柔軟に対応することだと知ることができました。

人材育成部 委員

坂本 明人

また研修会は、それぞれの現場で学生層育成に励んでいる仲間と交流できる場でもあり、情報共有ができ、勇ませ合える場でもありますので、ぜひとも「育成に役立つ研修会」にご受講いただきたいと存じます。

「変化球を覚えなさい」

令和 7 年 学生担当委員会 活動方針  
 「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

立教百八十八年 学生生徒修養会 高校の部 開催報告

「立教百八十八年 学生生徒修養会 高校の部」を8月9日より13日までの4泊5日で開催しました。今年779名の受講生を迎え、事前に研修を重ねた374名のスタッフが世話取りにあたりました。

今年の学修・高校の部では、昨年と同様「陽気ぐらしに必要なこと」向き合うことの大切さ」というテーマのもと、一年生は「人と向き合う」、二年生は「自分と向き合う」、三年生は「神様と向き合う」という学年別のテーマを掲げて作成したプログラムを実施しました。

スタッフ一同は7日より直前研修会を行い、8日の係員結団式におでましくくださった真柱様は係員一同に対し、受講生の丹精に当たる係員は布教に出るのと同じ心構えで、受講生がその年代として大切な心のあり方を学び、教への理解を深めてくれるように真実込めて取り組んでほしい。また自分自身も未熟な「求道者」であることを自覚して、この期間を自分の成人の歩みを進める気持ちでつとめてほしい、とお話してくださいました。その後、係員ごとでねりあいを行い、真柱様のご期待にお応えできるように、受講生を迎える心を作らせていただきました。

9日に受講生を迎え、いよいよ本期間が始まりました。各学年でウォーミングアップやオリエンテーション、関係づくりのためのグループワーク等を行い、心がほぐれてきたところで受講生が一堂に会し、開講式が執り行われました。その席上、学生担当委員会担当常誌山本忠治先生より、親神様、教祖が可愛い

子供たちが親元に帰ってきてくれたこと、また親の思い、陽気ぐらしの教えを学んでくれることを何より喜びくださっている。これから始まる5日間を存分に楽しみ、元気に通ってもらいたいという、激励のご挨拶を頂きました。

期間中、受講生は「グループタイム」や休憩時間、就寝前の時間等の中で、共に語り合い、支え合い、たすけ合う中で、縁あって出会った教友たちとの関係を深めました。また「親神様」、「教祖」、「かしまの・かりもの」の講話を通して、教えに触れる充実した5日間を過ごしました。

各学年ごとのお別れ会では、期間中を振り返り、心を通わせ、共に5日間を過ごしたカウンセラーと受講生が別れを惜しみ、涙する感動の場面が各学年で見られました。

閉講式では、表統領中田善亮先生が挨拶に立たれ、学修の根本にはおおびで育てたいという親神様の親心があり、その親心にお応えしたいというさまざまな人たちの思いが結集されている。また、このおおびは一人ひとりの真実の故郷であり、必ずたすけてくださる場所だということをお忘れなくしてほしい。そして、親神様が私たちに体をお貸しくださっていることに感謝し、「ご恩にお応えできる人、人のことを思うことができる人になつてほしい」と期待を込めてお話しくださいました。さらには、来行われる教祖百四十年祭、またそれに合わせて行われる学生おおびがえり大会にぜひ帰ってきてほしい、と述べられました。

最後に、今年の学修・高校の部も真柱様、真柱奥様、大亮様より大きな親心をお掛けいただき、各直属学生担当委員会の皆様のお力添えを賜る中、無事に務め終えさせていただきました。心より感謝申し上げます。

「立教百八十八年」子どもおおびがえり

大学生ひのきしん隊」開催報告

こどもおおびがえりに合わせて、7月27日〜8月3日までの期間、日帰り、大学生層を対象にした「大学生ひのきしん隊」を募集しました。期間中、1日だけの参加も可能でしたが、多くの学生が複数日参加し、計42名の学生がひのきしんに励みました。

学生たちは、おおびに帰ってきた少年会員に喜んでもらおうと、「回廊ひのきしん」での受け入れひのきしんを勤めました。天理大学や天理高校の学生らと共に、フリップを用いたひのきしんの説明や誘導、回廊での声掛けなどのひのきしんに励み、生かされていることに感謝する心、ひのきしんをする素晴らしさなど、多くの感謝や喜びを味わうことができました。

連日暑い中、参加した学生たちは汗を流しながらも、それぞれの役割に励んでくれました。回廊には「1、2、3、4」の掛け声が響き渡り、元気に回廊拭きをするこどもたちの姿を見て、信仰の喜びを味わっているように感じました。

「立教百八十八年天理教学生会

夏期リーダーの集い」開催報告

天理教学生会では、8月6、7日の2日間に渡り、此花詰所を主な会場に、「立教百八十八年天理教学生会夏期リーダーの集い」を開催し、総勢136名の学生が参加しました。（教区27団体67名、直属16団体21名、学生スタッフ48名）

1日目は、班内や、学年別・立場別での交流が行われました。その中で、お互いを知り、学生会活動へ対する思いを語り合ったり、学生生活と関わり、仲間存在を感じているようでした。また、道の学生ひのきしんDAY（9月14日）に向けて、かしまの・かりもの教えを学び、練り合いを行いました。

2日目は、1日目に学んだことを踏まえてひのきしんを実践し、ひのきしんの大切さを改めて実感したようでした。また、活動方針の実践としておつとめに重点をおき、講話やおてなおしを受けた上で、参加者一同心をそろえておつとめを勤めました。

日々行うひのきしんはもとより、道の学生ひのきしんDAYをどう迎えるかについて考え、お道につながる学生として心をひとつにすることを誓い合い、今回の夏期リーダーの集いを終えました。

青空

私が学生会で経験した中でとても心に残っている活動があります。それは「教会につながるDAY」です。なぜなら、この活動の打ち出しがあったときに、その意味を一生懸命に考えたからです。

当時の自分は「教会につながるって？」という、このシンプルな疑問を考えることがとても大切だと感じていました。参拝に来てもらう、それだけでもきつと十分なことだったのでしようが、「本当に教会につながるってどういうこと?」、「どんな人にとって?」、「教会の何とつながりが大切なのか」など、視点を交えることである。教会につながる」があるという気がありました。

所属の教会では「奥様のカラーが大好きです」と毎月の月次祭を楽しみに参拝してくださいる方もいて、とてもほっこりします。教会の中に誰かの「好き」とか「いいな」があふれるときと神様にも喜んでいただけるし、これが神様とのつながりへと続いているのかもしれないと気が付いた貴重な経験でした。

人材育成部本部スタッフ 塚本 稚